



輝け！藤中生

第2号 校長室だより

令和8年5月1日

藤井寺市立藤井寺中学校
校長 岸 廣幸

《慣れる（順化）について》

新年度がスタートして1カ月が経過しました。気温が徐々に上がり、スポーツテストや3学年そろった部活動が始まったことで、暑熱順化が大切な時期になります。

暑熱順化は、体を数日～2週間ほどかけて徐々に暑さに慣らし、汗のかき方や血流などの働きを変えて熱中症になりにくい体にするのですが、みなさんの学校順化や進級順化は進んでいますか？

学校に慣れることは、新しい環境や経験を重ねて違和感が薄れ、自然なものとして受け入れられるようになることで、成長の証でもあります。第1号でも記載しましたが、新しい環境・出会いがなければ成長しません。これは、生徒のみならずだけでなく、転入してきた教職員も同じです。5月の連休明けは、慣れるために頑張ってきた疲れが出てくる時期、連休中に休養する時間も考えて過ごしてもらえたらと思っています。



《あいさつ運動に向けて》

授業や休み時間、部活動や廊下ですれ違ったときに、気軽に挨拶をしてくれる生徒が多く、家庭や地域、小学校での習慣化に感銘を受けています。先日は、高校の進路担当の先生が来校され、校長室を出たときに、通りがかった3年生の生徒が、自然な感じで「こんにちは」と挨拶してくれて「藤中の生徒さんはしっかり挨拶ができていいですね」と誉めていただきました。社会に出るとこういった当たり前を自然にできることが大切で、第一印象が決まるとも言われています。

「おはようございます」「こんにちは」「ありがとう」「いただきます」「ごちそうさま」「さようなら」「ただいま」「おかえりなさい」「おやすみなさい」等の挨拶を自然にするには、日ごろからの習慣化がポイントになります。

挨拶の起源を流行りのAIで確認すると、日本語の由来は、禅宗で師と弟子が押し問答して悟りの深さを試す行為が起源とされています。そのため、私たち大人は、挨拶ができていない子どもを見て、「最近の若い子は・・・」となることがあります。しかし、大人が、人間関係を築く第一歩として、率先して挨拶することが求められているように感じます。

5月11日からは、本校のあいさつ運動がスタートします。地域や保護者のみなさまも近隣の子どもへのあいさつにご協力お願いします。何より教職員が率先して取り組みたいですね。